



第一礼拝次第

メッセージ：渡真利彦文牧師
プレイズリード：郭永東牧師

前奏	540	会衆
頌栄		〃
主の祈り		会衆
プレイズ	「主イエス様はぶどうの木」 「栄光イエスにあれ」	司会
聖書朗読	サムエル記下 12：1～10 (旧約聖書 p496)	〃
祈禱	461	会衆
賛美	「その男はあなただ」	牧師
メッセージ		〃
祈禱	新生520	会衆
賛美		〃
献金		司会
報告	新生672b	牧師
頌栄		〃
祝禱		〃



第二礼拝次第

メッセージ：渡真利彦文牧師
 聖書：ヨハネ 1：14 (新約聖書 p163)
 メッセージ：「ことばは肉となって」
 プレイズ：「この日は」「目を上げよ」
 賛美：新生6 新生176



ファミリー礼拝

司会：渡真利千佳子姉

聖書：使徒言行録 22：30～23：11
メッセージ：「神の前で、人々の間で」

<巻頭言>

「神への復帰」

牧師 渡真利彦文

1990年、神学校の学びを終えて、沖縄に戻り胡屋教会の副牧師として約1年仕えることになった。その頃諸教会は沖縄県民の救霊のために熱心に祈っていた。しかし、いつの間にか、その祈りも聞こえなくなった。

1991年、沖縄バプテスト連盟は宣教百周年を迎え、既刊の「宣教の歩み」～80年史～を包括する「百年史」の刊行は、時宜にかなったものであった。連盟は「世界宣教」を掲げ、9か年計画を諸教会の協力を得て宣教に励んだ。また連盟から初めての宣教師・東風平巖師をネパールに派遣するに至った。

思えば、1891年、スコットランドのアラン女史の祈りと献金によって起こされた、沖縄の小さなバプテストの群れは、今や33教会、5伝道所にまで成長拡大しつつある。神の祝福を感謝するばかりである。

時は流れ、今日2022年5月15日、沖縄は1972年の日本復帰から50年の節目を迎える。沖縄の執政権が日本に返還されて50周年にあたる記念日。沖縄の日本復帰は沖縄の自己決定権の観点から考えると、歴史的に大きな意味がある。日本復帰に際して、沖縄の人々が望んだことは、二度と沖縄が戦場になることなく、子孫に戦争を経験させないということであったと思う。戦争拒否という意味が沖縄の日本復帰の根底にあったといえる。

「平和を実現する人々は、幸いである」(マタイ 5：9)という聖書のみ言葉はキリスト者に使命を授けている。それは「神に復帰する」社会づくりといえるのではないだろうか。